

久留米市セーフコミュニティ現地審査 スケジュール

場所：久留米シティプラザ 5階 大会議室

	7月31日（月）	8月1日（火）
9:00	全体概要 〈9:15～10:00〉	⑤交通安全対策委員会 〈9:15～10:15〉
10:00	外傷等動向調査委員会 〈10:15～11:15〉	⑥防犯対策委員会 〈10:30～11:30〉
11:00	①児童虐待防止対策委員会 〈11:30～12:30〉	⑦DV防止対策委員会 〈11:45～12:45〉
12:00	昼食・休憩	昼食・休憩
13:00	市内視察 〈13:30～15:30〉 ※移動含	⑧自殺予防対策委員会 〈14:00～15:00〉
14:00		審査員ミーティング 〈15:10～15:50〉
15:00		審査員講評 (第24回久留米市SC推進協議会) 〈16:00～17:00〉
16:00	③学校安全対策委員会 〈16:15～17:15〉	
17:00	④高齢者の安全対策委員会 〈17:30～18:30〉	
18:00		

プロフィール

審査員

◆ジョンイ・ペ (Jeongyee BAE) ◆

- 博士(看護学)
- インジェ大学看護教授(2021年より学部長)
- 内務・安全省、国防省、韓国消防庁、韓国防災研究センター等
政策アドバイザー
- 釜山市および金海市のセーフコミュニティ研究センター ディレクター
- 国際セーフコミュニティ・セーフスクール公認認証審査員



ソウル大学看護学部にて修士号を修得後、梨花女子大学にて博士号を修得(看護学)。2005年には、米国ワシントン大学にて客員研究員として経験を積む。

セーフコミュニティ及び安全・安心に関する分野では豊富な経験を有しており、国レベルでは、上記以外にも様々な省庁において安全に関する政策アドバイザーを務める。また、地域においては、インジェ大学国際セーフコミュニティ研究機構のセンター、釜山市および金海市のセーフコミュニティ研究センターのディレクターとして7自治体(うち4自治体は広域市)の支援を行う。

国際セーフコミュニティおよび学校版SCであるインターナショナルセーフスクールの審査員として各国の審査においても豊富な経験を有しており、これまで主審査員及び副審査員として日本をはじめ20以上の自治体の審査を担当しており、久留米市においては前回の審査も担当している。

◆レザ・モハマディ (Reza MOHAMMADI) ◆

- 国際セーフコミュニティ認証センター センター長
- ストックホルム郡ヘルスセンター長
- カロリンスカ研究所(医科大学) 研究員
- 国際セーフコミュニティ公認認証審査員



イランにおいてイラン CDC(疾病予防管理センター)のセンター長を務めたのち、スウェーデンのカロリンスカ研究所社会医学部公衆衛生学科において研究を始める(現在も研究員として在籍)。

2004年から2015年の間、WHO 地域安全向上のための協働センターの上席アドバイザーを務める。2015年からは国際セーフコミュニティ認証センターの副センター長、2023年からセンター長を務める。

1996年から25年以上にわたってセーフコミュニティの分野にかかわっており、これまで40以上の認証審査を担当してきた。

◆ゴールドブランド・シェーンボリ(Guldbrand SKJÖNBERG)◆

- 国際セーフコミュニティ認証センター
理事・ジェネラルマネジャー
- 国際セーフコミュニティ公認認証審査員



1970年代に北欧現代計画研究所に籍を置き、大学院で現代都市計画プランナーとなった後、米国タフツ大学において公衆衛生を学ぶ。その後、スウェーデンに戻りウプサラ大学においてリーダーシップ高等教育を受ける。

卒業後は、公衆衛生職員として行政での経験を重ねた後、国の保健福祉委員会において実績を積んだ。さらに、基礎自治体であるナッカでの20年を経て環境省に移った。その後、コミュニケーション省、総務省などで環境分野の専門家として実績を積んだ。

セーフコミュニティに関しては、草創期から制度の立ち上げ、普及にかかわるとともに、コミュニティにおける活動の支援にかかわってきた。

また、審査員として1989年から今日まで、ヨーロッパ、南米、アジア(日本含む)、オセアニアのコミュニティの審査を担当している。

オブザーバー

◆マイケル・ウィルソン(Michael WILSON)◆

- ハイデルベルグ世界健康研究所(ドイツ)
傷害疫学ユニット長
- ICT 大学 公衆衛生学部准教授(カメルーン)
- トゥルク大学医学部(傷害疫学)准教授(フィンランド)
- 国際セーフコミュニティ公認認証審査員



アメリカやスウェーデンの大学で公衆衛生の教育を受けたのち、これらの国々に加え、南米(コロンビア)やアフリカ(タンザニア)、カナダにおいて研究者としての実績を重ねる。現在は、フィンランドのトゥルー大学大学院に籍をおき、非常勤教授として外傷予防に関する研究を進める。

その一方で、実践者としても活発に活動を展開しており、タンザニア外傷予防及びコミュニティ安全向上センターのディレクター、PeerCorps Centre for Injury Prevention and Community Safety (CIPCS) の共同設立者、タンザニア デジタルライブラリー イニシアチブの設立者及び技術的リーダーとして地域レベルでの安全の向上に取り組んでいる。

また、セーフコミュニティの審査員として欧州・アジアをはじめ各国の審査を担当してきた。

コーディネーター

◆ 白石 陽子 ◆

- 博士(政策科学)
- 一般社団法人日本セーフコミュニティ推進機構 代表理事
- アジア地域セーフコミュニティ支援センター連合 事務局長
- セーフコミュニティ公認認証審査員
- 立命館大学衣笠総合研究機構 研究員
- 韓国亜州(アジョー)大学 医学部 客員教授
- 韓国仁済大学(インジェ)大学 顧問教授



立命館大学大学院政策科学研究科博士課程在学中に「セーフコミュニティ(SC)」に出会ったことをきっかけに、セーフコミュニティの発祥地であるスウェーデンのカロリンスカ研究所(医科大学)でセーフコミュニティを学ぶ。2008年にセーフコミュニティに関する研究により博士号(政策科学)を授与され、立命館大学の研究員としてセーフコミュニティの研究を進めた後、京都大学大学院医学研究科においてセーフコミュニティの研究を進める。2011年にセーフコミュニティ支援センターとして認証され、現在はセーフコミュニティ推進機構代表理事としてセーフコミュニティ活動の支援と研究に専念している。また、同年12月には、「インターナショナルセーフスクール」の認証センターとしても認証された。これまで、国内17自治体のSC活動と30の保育所・小学校・中学校を支援するとともに、セーフコミュニティ、セーフスクールの研究を続けている。また、公認認証審査員として、アジアを中心にセーフコミュニティ及びセーフスクール活動の支援及び認証審査を行っている。